

# 教務報告

教務主任

尾崎 久美子

## 1. 日程

### a. 2004年度夏期日本語教育開始までのスケジュール

#### 2003年

- 9月 次年度の夏期日本語教育ディレクター（根津真知子）・教務主任（尾崎久美子）・文化プログラム主任（林千代）が決定
- 9月 2003年度夏期日本語教育反省会
- 9月 次年度パンフレットと募集要項を作成
- 10月 次年度講師募集要項を作成
- 11月初め 講師募集開始

#### 2004年

- 1月 日本人学生のボランティア（チューター、会話パートナー）およびアルバイト（事務助手、ラボ助手）を募集
- 1月末 講師募集締め切り
- 2月中旬 講師の採用選考会議で採用者を決定、選考結果を発送
- 3月 講師採用予定者に職務内容を送付  
I L C（総合学習センター）に施設と機材の使用願いを提出
- 3月25日 学生の願書締め切り
- 4月上旬 学生の選考を行ない、合格通知を発送
- 4月 新年度を迎え、再び日本人学生のボランティアを募集
- 4月下旬 セクション数とコース担当を確定
- 5月 凡人社に教材を注文、夏期の出張販売を依頼  
講師に教科書送付、教務関係の連絡をする  
管財グループ、学生グループ、図書館スタッフと打ち合わせ
- 6月 学生寮ヘルパーとの顔合わせ  
プレースメントテストの作成と採点を日本語教育課程に依頼  
事務助手（学生アルバイト）に連絡、仕事開始  
書籍・教材・文房具その他を準備  
各コースの使用予定教材・コンピュータの環境等について講師に連絡  
ラボ助手オリエンテーション（I L C主催）をもち視聴覚教材を準備

6月末 本館講師室のセッティング、書籍・文具等の引っ越し  
 プレースメントテスト準備

b. 夏期日本語教育期間中および期間後のスケジュール

7月 2日 (金)	10:00- 1:30- 3:00-3:30 3:30-	ヘッド会議 全体講師会 プレイスメントテスト監督者打ち合わせ 新任講師のためのラボ・オリエンテーション
7月 5日 (月)	9:00-6:00	学生の登録・入寮／ホストファミリー受入れ
7月 6日 (火)	8:30-12:00 1:15-3:00 3:30- 4:00-	プレイスメントテスト実施 学生オリエンテーション、歓迎会 学生向けキャンパス・ツアー プレイス判定会議
7月 7日 (水)	8:50-9:20 9:20 9:30-  12:00- 2:00-	学生のラボ・オリエンテーション クラス分け (tentative) 発表 各クラスで作文テストとインタビュー 授業開始 テキスト販売 (凡人社) 学生向け図書館オリエンテーション
7月 8日 (木)	朝 から 12:00-	テキスト販売 (事務室にて) テキスト販売 (凡人社)
7月 9日 (金)	1:30-	ヘッド会議 コース・シラバス、授業担当者スケジュール、 コースの学生名簿を提出
7月12日 (月)		コース変更最終日
7月14日 (水)	1:30-2:00	全体講師会
7月16日 (金)	1:10-3:10	講師懇談会
7月中・下旬		Tシャツコンテスト開催
7月21日 (水)	1:30-2:00	全体講師会
7月26日 (木)	10:20	写真撮影
7月28日 (水)	1:30-2:00	全体講師会
8月 4日 (水)	12:00- 1:30-2:00	テキスト販売 (凡人社) 全体講師会
8月11日 (水)	1:30-2:00	全体講師会
8月最終週		学生と講師にコース・プログラム評価のアンケートを実施

8月14日（土）	12:00-3:00 4:00	期末試験実施 歓送会 成績提出締め切り
8月16日（月）		書籍・文具等の引っ越し
9月末日		コース報告書の原稿締め切り
10月		2004年度夏期日本語教育反省会

## 2. コースについて

### a. 授業時間の変更

従来下の表Aのようなやり方で行なわれてきた1コマ50分で週20コマの授業を、表Bのような時間の配分、1コマ70分で週15コマに変更した。（午後の時間は個別での指導。）変更の理由は、春・秋・冬のICUの通常学期に行なわれている日本語の授業にあわせるためである。その結果、週の授業時間が、週1000分から週1050分が増えた。

	月	火	水	木	金
8:30～9:20					
9:30～10:20					
10:40～11:30					
11:40～12:30					
昼休み（60分）					
1:30～1:20					

表A（2003年度まで）

	月	火	水	木	金
8:40～9:50					
10:00～11:10					
11:20～12:30					
昼休み（60分）					
1:30～1:40					

表B（2004年度から）

変更は授業時間の増加だけでなく、開始時間の10分変更、20分休みの廃止ということになったが、1コマの中でのアクティビティに時間的余裕が生まれる等概ね好評で、特に問題はなかった。

### b. コース編成と担当教員

コース	セクション	担当教員（*はヘッド 敬称略）	受講者数
C1（初級1）		*二宮理佳・斉藤純子	9
C2（初級2）	A+B	*黒川美紀子・有留寛大・小松満帆	19
C3（初級3）	A	*下村朋子・安納恵子	12
	B	*後藤多恵・福島亜子	11
C4（中級1）	A	*藤原恵美・池田佳子	11
	B	*古川香苗・大嶋晶代	12
	C	*数野恵理・荒竹由紀	11

C 5 (中級 2)		* 村松千恵・高木ひろ子	1 2
C 6 (中級 3)		* 増山和恵・野中陽子	1 0
C 7 (上級)		* 佐藤由紀子・本橋美樹	9
C 8 (特別)		* 江崎裕子・佐々木智子	6
8 レベル 1 2 セクション		2 3 名	1 2 2 名

\* C 2 は部分的にセクションを 2 つ設けた

コース受講者は例年並の 1 2 2 名だったためセクション数も同じ 1 1 セクションとしたがコース間でばらつきが出てしまい、C 2 レベルは 1 セクション 1 9 名のスタートとなってしまった。そこで急遽小松満帆先生に講師をお願いし、C 2 は部分的に 2 セクションとした。だが、概ね受講者のレベル分布はほぼ例年どおりで初級中頃から中級にかけて人数が多かった。

### c. 使用教材

受講生が購入したコースの主教材は次のとおりである。実際の授業ではこれ以外のものも多数使用されており、詳細については、各レベルのコース報告を参照されたい。

- C 1 (初級 1) 『Japanese for College Students, Basic Vol.1』
- C 2 (初級 2) 『Japanese for College Students, Basic Vol.2』
- C 3 (初級 3) 『Japanese for College Students, Basic Vol.3』
- C 4 (中級 1) 『テーマ別中級から学ぶ日本語』
- C 5 (中級 2) 『テーマ別中級から学ぶ日本語』
- C 6 (中級 3) 『どんな時どう使う日本語表現文型500中・上級』
- C 7 (上級) 『どんな時どう使う日本語表現文型500中・上級』  
『Kanji in Context, Workbook Vol.1』
- C 8 (特別) 『Kanji in Context, Workbook Vol.1』

コース間で金額の差が大きくならないように、2000円前後を目途に進めていたが、副教材としてこちらが準備したテキストを購入する学生も多かった。また、コースによってはコピー代 (700円) を徴収した。教科書販売は基本的に凡人社の出張販売をお願いしたが、学生の便宜をはかり、それ以外の時間にも購入できるように教務で教材を預かって販売の代行を行なった。

## 3. 受講生について

従来より少し早い3月25日に応募が締め切られたが、例年とほぼ同数の応募があった。応募総数は199名で、そのうちプログラム (ロータリー、交換留学: ポモナ大学、カリフォルニア大学、ペンシルバニア大学) が50名、一般応募が148名、本学教員の応募が1名であった。最終的な受け入れ数はプログラム46名、一般75名、本学教員1名の計122名となった。(学生の国籍その他については、本誌の「事務報告」を参照されたい。)



受講の目的は、「日本語が専門である」あるいは「日本語を専門の研究に生かす」「将来 (もしくは

は現在)の職業のため」が大半を占めた。次いで「日本文化への興味」「日本人／日系人であるから」「以前ICUで日本語学習の経験があるから」「先生・知人・兄弟に薦められて」等が続く。

#### 4. プレースメントと学生のコース移動

プレースメントについては、今年度も引き続き同様のテストを実施した。すなわち、初日に3つの試験(文法・漢字語彙・聴解)を行ない、翌日「tentative」として仮の結果を発表、さらに2つの試験(面接・作文)を行って総合的に判断する方法である。次の表がコース移動人数の内訳であるが、初日の試験後のプレースからコースを移動した学生は約18%であり、これはほぼ例年通りと言えよう。また、表から、初級の学生の移動が比較的多かったこと、プレースより上がる学生は下がる学生より少ないこと等がわかる。

初日の試験後のプレースと実際に履修したコースとの関係

履修したコース	C 1	C 2	C 3	C 4	C 5	C 6	C 7	C 8	計
プレース通り	6	14	20	30	9	9	6	6	100 (81.97%)
プレースより下	3	4	2	3	1	0	1		14 (11.48%)
プレースより上		1	1	1	2	1	2	0	8 (6.56%)
計	9	19	23	34	12	10	9	6	122 (100%)

#### 5. 教務・学習環境および視聴覚教材など

##### a. 講師室

講師室はサマーコースの中心となる部屋で、各コースの机の他、教務主任・事務助手の机、応接セットを備え、事務助手(府川未来・菅原生江)は勤務時間内は必ず一人が常駐するようローテーションを組んだ。電話は内線／外線用を2台、内線専用を1台、事務用コンピュータとプリンタ各1台、コピー機1台、冷蔵庫1台(中に麦茶を常備)の他、食器棚を設置した。教師用の教材やテキスト、ビデオ、テープレコーダーの貸し出しはこちらで行った。本館の鍵を全員に貸し出すことができ、施錠後の居残りも可能で好評であった。

##### b. 教材作成室

講師室に隣接した部屋を教材作成室とし、コンピュータ8台(Macintosh7台、Windows1台)、プリンタ1台、ビデオデッキとモニター1台、コピー機1台に応接セットを用意した。この部屋はコース期間中、学生の入室は禁止した。

##### c. 教室

いくつかのコースが別棟を使用していた昨年度とは異なり、今年は全コースが本館の教室(東側

1階・2階・3階）を使用することができた。これは非常に好評で、講師や学生への連絡等もスムーズに行なうことができた。

通常の教室の他、図書館のマルチメディアルーム、I L Cのランゲージラボ（2室）、コンピュータルーム（1室）等、も使用した。図書館の予約は教務主任、I L C関係の教室の予約はラボ助手（山田真寛・山内真理子・松井愛・ト部祥子）を通して行なった。

#### d. 視聴覚教材・機材

教材のテープやビデオ（市販のもの）は著作権上の問題からコピーは作らず、マスターテープを授業で使用した。機材のうち、テープ／CD／MDレコーダーは講師室に常備し講師が各自貸し出しを行なったが、ビデオデッキとモニター・ビデオカメラ・OHP等はラボ助手を経由して利用するようにした。

### 6. 会話ボランティアおよびチュートリアル・ボランティア

昨年同様、I C Uの学生に会話ボランティアとチュートリアル・ボランティアを募って参加してもらった。会話ボランティアは各コースから要請があった場合に担当の事務助手が希望に応じて日本人学生を手配するものである。これは大変需要が多く、事務助手が捌くのは大変な仕事であったと思うが、例年同様、受講生にも日本人学生にも講師にも非常に好評であった。

また、社会人ボランティアによる会話クラスも行なった。ボランティアは津田日本語教育センター（財団法人津田塾会）とMISHOP（財団法人三鷹国際交流協会）の日本語教授法コースの受講者にお願いして募った。社会人ボランティアは年齢層も幅広く、様々な経験にもとづいたお話をしてくださり、受講生には大変好評であった。

チュートリアルについては、教務が必要と認めた受講生のみに教務主任が学生を斡旋したが、こちらも大変好評であった。

これらのボランティアについては、連絡の煩雑さ、突然のキャンセル等、諸問題があったが、是非来年度も継続しておこなってもらいたい。

### 7. 今後の課題

今後の課題として2004年度夏期日本語教育反省会（2004年10月5日）で挙げた点のうち、重要と思われるものを箇条書きで以下に記す。

#### <教員について>

- ・ 応募の際の授業風景のビデオテープは大変参考になったので継続すべき。
- ・ 応募の際、書類不備の者が多かった。
- ・ コースが始まってから早い段階でこちらのスタッフが授業見学に行ったことは良かった。

#### <助手について>

- ・ 勤務時間や日程等の調整をもっと綿密にするべきだった。

＜コース期間中＞

- ・ コピーの使用回数の制限を呼びかけ、かなり減少した。
- ・ Windows のコンピュータを、図書館に学生用、本館に講師用に用意できたことは大変よかった。
- ・ 本館でのインターネット接続のコンピュータの要求が高かった。
- ・ 会話ボランティアは受講生、講師、日本人学生ともに好評。継続したい。
- ・ Tシャツコンテストは好評で、収支も問題なかった。

今年度の期間中は記録的な暑さ（史上最高の「真夏日40日連続記録」ができ、これはまさに夏期日本語教育の日程とぴったり重なった）で、初日のプレースメント時から気分を悪くして倒れる学生が出たが、全世界的な異常気象は今後も続くと予想される。学生の体調への配慮や、快適な学習環境の充実等、ますますこれから必要となってくるであろう。今後も種々の問題を解決していけるよう、協力したいと思う。